

# 平和への願いを込めて

## 「平和都市宣言推進事業「平和の旅」」

8月6日(日)、野々市・布水中学校から13人の生徒が広島市の平和記念式典に参加し、平和への祈りを捧げました。式典前日の5日(土)には、原爆の子の像の前で布水中学校の中江武士さんが自身の思いをつづった平和宣言文を読み上げ、平和への誓いを新たにするとともに、市民から託された約1万羽の折り鶴を捧げました。生徒2人の感想文を紹介します。



**世界の平和**  
**野々市中学校3年 中村 泰雄**

1945年8月6日午前8時15分。広島に一つの原子爆弾が投下され、街は一瞬にして廃墟となりました。大人から子どもまで、多くの命が犠牲となったのです。

僕はこの平和の旅を通して、核兵器の恐ろしさを実感できました。たった一発で、これほどの被害をもたらすのです。かろうじて生き残った人でも、放射線による被害を受けて苦しんだ人はたくさんいます。そんな核兵器が世界に約1万5400発もあるのです。これ以上人間は、二度と同じ過ちを犯してはいけなと思います。平和記念式典で読み上げられた「平和への誓い」にこのよな言葉がありました。

「未来の人に、戦争の体験は不要です。しかし、戦争の事実を正しく学

ぶことは必要です。」

広島に原子爆弾が落とされたことを、ただ過去の事として語ってはいけない。二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、一人一人が平和への強い思いを抱いて後世に伝えていくことが大事だと思います。

誰も戦争を体験したいと思わないし、誰にも体験してもらいたくありません。しかし、広島での出来事は決して忘れてはいけません。広島の人々は「原爆」から目を背けずに、平和への願いを伝えてきました。そんな人たちの思いを、僕は多くの人に知ってもらいたいし、伝えていきたいです。これからも「世界の平和」を強く願い続けます。



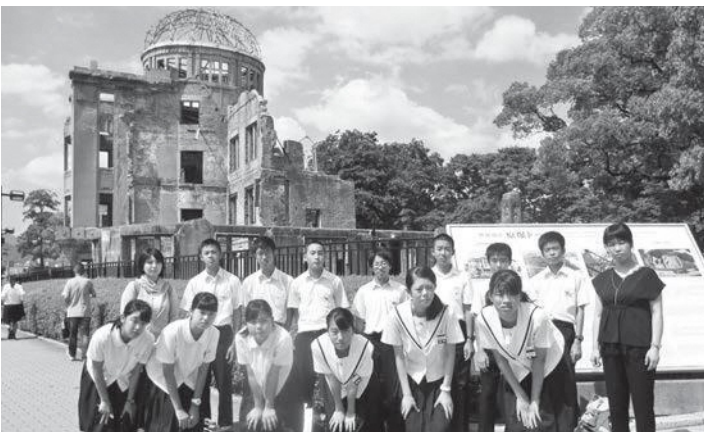
**今、平和を考える**  
**布水中学校3年 岡田 愛梨**

周囲に散らばった建物の大きな破片。骨組みだけになったドーム。私たちが見た「原爆ドーム」はあまりにも無残な姿で、教科書の写真だけでは伝わってこない悲しみを訴えかけてきているようでした。

平和記念公園は沢山の緑に囲まれた豊かな公園です。きっと季節が変われば、また違った美しい自然を楽しむことができるでしょう。しかし、「原爆ドームのある空間」だけは、いつまでも8月6日、原爆が落ちた時から時代が止まっているように感じました。

また、原爆による大きな被害の現実を平和記念資料館で目の当たりにしました。今まで学習してきた知識の何倍も衝撃を受けましたし、本当に一瞬で全てをうばってしまう兵器が今、この世の中にもあるのかという恐怖を抱きました。

平和記念式典前日、会場を見学していた時、外国人の式典参加者が年々増えてきているという話を聞きました。世界にはまだ、核兵器は存在していて、未だ原爆の被害から立ち直れない被爆者の方もいるという暗い現実の中、平和のために動こうとしている人々が世界で増えていくということを知り、胸が温かくなるのを感じました。



私が一番心に残っているのは、現地の方が話しかけてくださったときにお聞きした言葉です。

「平和を目指したいなら、8月6日の出来事を私たちは絶対に、絶対に忘れてはいけななのだ。」この言葉を、力強く噛みしめるように話されていました。

今回、平和の旅に参加させていただき、原爆について、これからの平和について、より深く考える機会を持つことができました。まずは私自身が、一人でも多くの人に平和への思いを伝えていきたいと思えます。